

出流原PA周辺総合物流開発整備に係る周辺住民全体への進捗状況等の説明及び周辺住民の意見聴取の場の設置を求める陳情

1 陳情の要旨

平成28年3月の「出流原PA周辺総合物流開発整備に関する基本構想書」には、エリアの整備を段階的に分けて進めることが効果的と記載されています。Aゾーンの計画が基本構想を基に動き始めていますが、Bゾーンはいつになるのでしょうか。BからFゾーンまでの構想に変わりはないのでしょうか。周辺住民全体に向けた、具体的な進捗状況、事業の方向性等の説明及び周辺住民の意見を聴取する場の設置を求めます。

2 陳情の理由

15年ほど前、佐野市より出流原PA周辺へのインランドポート建設構想が発表され、議会でも重ねて議論され、学識経験者に調査依頼をし、推進室も設置されましたが、最終的に佐野田沼IC周辺に佐野インランドポートが建設されました。

その後、主な建設予定地であった出流原PA北側、彦間川沿線に残土の運搬搬入が始まり、平地は極端に消滅してしまい、盛土の壁やETCへの進入道路で後山地区は陸の孤島化し、景観法に基づく市条例に触れるような現状です。

また、「出流原PA周辺総合物流開発整備に関する基本構想書（構想エリア、ゾーニング図明示）」が配布されてから6年が経過しましたが、エリア内に住まう住民としまして、やがて立ち退きをせざるを得ないと思いますと、家のリフォームも、庭の手入れも、気が乗りません。

さらに、平成29年11月14日、平成30年12月25日の（仮称）出流原PAスマートインターチェンジ及び県道山形寺岡線整備に係る説明会（会場：出流原小学校）において、周辺開発計画についても地域

住民から複数質問がなされ、市当局により意見聴取を行って実施していくことが確約されていきました。

すでに、(仮称)出流原PAスマートインターチェンジの建設により立ち退いた住民は「現地には移築しないで欲しい。」と行政から言われたとの事です。Aゾーン内の住民も当地区から転居することが推測され、益々限界集落となります。AからFゾーンの開発の発表があつてから、人口減少や環境の変化に周辺住民の不安は募っており、開発の進捗状況を注視しております。周辺住民の不安の払拭のため、細やかな説明及び周辺住民の意見聴取の場を得たいため、要旨のとおり本陳情をいたします。